

2月 全校朝会
令和8年2月2日

葉っぱのフレディ
いのちの大切さを考えながら、これまでの生活を振り返ろう！

親友のダニエルは教えてくれた

いつかは死ぬのさ。でも命は永遠に生きているのだよ。
さよならフレディ、ダニエルはゆっくり静かにいなくなりました。

ダニエルは涙ぐみずきました。
「ぼくらは春から冬までの間 ほんとうによく働いたし、よく遊んだね。まわりには月や太陽や星がいた。雨や風もいた。人間に木かげを作ったり 秋には鮮やかに紅葉してみんなの目を楽しませたりもしたよ。それはどんなに 楽しかったことだろう。それはどんなに 静かだったことだろう。」



フレディは ひとりになりました。

葉っぱのフレディ

いのちの旅
レオ・バズカリーア作
みらい 文庫



葉っぱのフレディは この春 笑き木のかげに笑いながら生まれました。そして夏にはもう 厚みのある りっぱな体に変身しました。正つに分かれた葉の光は 万倍とがっています。

フレディは春に生まれた。

次の朝は初雪でした。冷たい雪が重く感じられます。

フレディはゆっくり舞って、そつと地面におりていきました。冬が終わると春が来て、雪はとけ水になり、枯れ葉のフレディはその水にまじり、木を育てる力になるのです。また春がめぐってききました。いのちというのは、永遠に生きているのだ。



次の朝は雪でした。初雪です。やわらかまっ白でしずかな雪は じんとうと身にしみました。その日は一日中とんよりたくもり雪でした。目は早く曇りました。フレディは自分が色あせて枯れてきたよに思いました。冷たい雪が重く感じられます。南け方フレディは遠く来た風によって枝をはなれました。痛くもなく こわくありませんでした。フレディは 空中にしばらく舞って それからそつと地面におりていきました。

また 春がめぐってききました。

親友のダニエルは教えてくれた
フレディは木の葉っぱであることを
葉っぱの仕事は木かげを作ることだと



親友のダニエルは教えてくれた
秋になると、みんな違う色に変わることを
冬になると、みんなここからいなくなることを



風が変わったのは そのあとでした。夏の間 笑いながらいっしょに寝てくれた風が 別人のように 顔をこわばらせて 葉っぱたちにおそいかかってきたのです。葉っぱはこらえきれずに吹き飛ばされ まき上げられ つぎつぎと落ちていきました。

「きわいよう」「こおいうよう」 葉っぱたちはおびえました。そこへ 風のうなり声の中からダニエルの声が とぎれとぎれに 聞こえてきました。

「それはねー」とダニエルが言いました。生まれたときは同じ色でも、いま場所がらえば 太陽に向く角度がらう。風の通り具合もがらう。月の光 星明かり 一日の気温 なにひとつ同じ経験はないんだ。だから紅葉するときは みんなちがう色に変わってしまうのさ。」

みなさんは何を感じましたか？

- ・葉っぱの形がそれぞれ違う→人の個性はそれぞれ
- ・木蔭を作ること→人のために尽くすことの素晴らしさ
- ・紅葉→人生の経験によって、生き方の色が決まる
- ・枝を離れる→独り立ちして、生きる世界の大きさを知る
- ・枯れ葉→いのちは永遠に違う形でつながる
- ・ダニエル→人生を語り、人のために尽くす者がいる

これまでの生活を振り返り

生かされていることに
感謝して春を待ち、
次の出会いも、自分らしく
ありますように！